

令和5年度京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知・情・意・体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともに、ボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 頑健な身体【体】 自他の生命を大切にし、健康でたくましく生きる体力を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的・計画的な進路指導によって、15年連続となる就職内定率100%を達成した。</p> <p>(2) 地域創生科について、各系統が特色ある取組を進め、系統長会議等を活用して連携を図った。</p> <p>(3) 個々の生徒に応じた指導に丁寧に粘り強く組織的に取り組み、安心して過ごすことができる学校環境づくりを行った。特に、新型コロナウイルス感染症における感染拡大防止の取組については、適切に対応し、校内での感染拡大を防いだ。</p> <p>(4) 授業や部活動を通して、専門的な知識・技能を高める指導を行い、以下のとおり成果を収めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度全国高等学校総合文化祭写真部門出場 ・第71回京都府高等学校商業実務競技会団体第3位、個人第10位、新人賞 ・令和4年度高校生防犯動画コンテスト最優秀賞 ・令和4年度「税に関する高校生の作文」近畿税理士会福知山支部長賞 ・第18回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2022 4コマ漫画部門優秀賞、ポスター部門優秀賞 ・京都府私立中学高等学校商業教育研究会主催第35回ワープロ競技大会 団体準優勝、個人2等、3等、新人賞 ・令和4年度高写連作品審査会 佳作 <p>2 課題</p> <p>(1) 令和4年度で地域創生科が完成年度となったが、取り組んできた活動について内容・成果を点検し、さらに魅力ある取組とする工夫・改善することが必要である。</p> <p>(2) 生徒募集においては、一定の志願者があったが、定員の充足には至っていない。ホームページの更新や地域創生科ニュース、報道機関による広報等を通して工夫を継続することが必要である。</p> <p>(3) 「生徒一人一台の学習用端末」が導入され、GIGAスクール構想に対応したICT機器に係る効果的な活用方法の研究や研修を引き続き推し進める必要がある。</p> <p>(4) 新学習指導要領や第2期京都府教育振興プラン、府立高校在り方ビジョンに対応したスクールミッションを策定し、その実現に向けて教育内容の充実及び評価方法の工夫・改善を行い、より質の高い学力の育成に向けて取り組まなくてはならない。</p>	<p>1 教職員の気づく力を磨き、生徒理解や教育相談機能の充実を図り、特別支援教育の視点と人権尊重を基盤とした生徒の指導を通して、自己有用感や自尊感情を育み、人権感覚の涵養に取り組む。</p> <p>2 「地域創生科」の教育の成果を点検し、より魅力ある取組となるよう改善し、地元地域や関係機関及び事業所との連携を一層推進した本校ならではの教育活動を実践する。</p> <p>3 キャリア教育を一層推進し、具体的な取組を通して、豊富な知識とより高い技能を身につけさせ、思考力・判断力・表現力を育むとともに、学びに向かう力や人間性の陶冶に努める。また、主体的に地域において社会貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>4 GIGAスクール構想に対応した「生徒一人一台の学習用端末」の活用を進め、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。</p> <p>5 生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい部活動の活性化を図る。</p> <p>6 働き方改革を推進し、整理整頓等による職場環境の改善と業務の効率化を図り、諸課題に的確に対応できる組織づくりを進める。</p> <p>7 健康・安全教育、防災教育・環境教育を推進し、安心・安全な教育環境を構築する。場面に応じた適切な感染拡大防止対策を行いながら、できる限り多様な学びを進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	人権感覚の涵養を基盤とした教育の展開及び魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を取り巻く環境の些細な変化に気づき、早期発見、早期対応ができるよう、教職員間の連絡・報告・相談を密に図る。 各系統の特色ある教育活動の一層の充実を図るとともに、校内外に広く発信する。 〔学校経営計画における具体的方策の評価A及びBの割合〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B B	関係機関や地元企業等、地域と連携し、各系統の特色ある取組をすすめることができた。また、全学年の学習成果発表会を実施し、地域密着型の学科の取組について、校内外に広く発信することができた。 地域からの本校生徒に対する期待も厚く、地域のイベント等における部活動やボランティア活動に積極的に参加する姿が見られた。 【具体的方策の評価A・Bの割合 84.2%】
A	B	C	D									
90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
教務部	授業力向上	ICT機器を効果的に活用し、生徒の学力伸長を図ることができるよう推進する。 〔ICT機器を活用する教員の割合〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80%以上	60%以上	60%未満	B	1学期にICT機器を活用して授業を展開していた教員は90.0%であり、昨年度末は62.5%であったため増加した。また、2学期には研究授業・公開授業を実施し、授業力向上につなげることができた。今後も効果的なICT機器の活用を促進し、生徒の学力伸長につなげていきたい。そのために、ハード面の整備も必要である。 広報については、様々なメディアを用いて効果的なPRを心掛けた。オープンスクール、進路相談会においては、昨年度より多くの中学生の参加があったが、志願者数の増加には残念ながらつながらなかった。
	A	B	C	D								
100%	80%以上	60%以上	60%未満									
効果的な広報の推進による志願者増	学校説明会、オープンスクール等の機会を通して、本校の魅力を中学生、保護者へ積極的にPRし、志願者の増加を図る。 〔前期選抜における募集定員に対する志願者の割合〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%以上</td> <td>70%以上</td> <td>40%以上</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%以上	70%以上	40%以上	40%未満	C		
A	B	C	D									
100%以上	70%以上	40%以上	40%未満									
事務部	生徒・教職員が安心・安全な学校生活を送れる環境づくり	短期経営目標に基づき、危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行い、日々の美化清掃、整理整頓で教育環境の構築を図る。 〔教育環境改善への充足度〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満	B	日々の美化清掃は確実に実施し、破損個所の修復も速やかに行った。台風災害応急措置や枯れた樹木の伐採等危険箇所の対応についても、本庁から予算確保の上早期に対応した。台風災害復旧を引続き要望していく。有価廃棄物等の処分、エアコン改修、トイレ洋式化、照明LED化、換気設備充実、無線LAN延長、砂場改修等で教育環境改善を図った。 電気代や物価高騰もあり教科・分掌予算の執行については例年以上に苦慮した。指導書の購入をはじめ、各教科・各分掌の要望がバランスよく反映できるよう執行に努めた。
	A	B	C	D								
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満									
組織的な学校運営	学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校内運営に参画し、教育内容充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。 〔教科・分掌予算の要望に対する充足度〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満	B		
A	B	C	D									
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題								
第1学年部	生活指導	<p>① 挨拶をする。時間を守る等、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ② 地域創生科生としてふさわしい身だしなみをするよう指導する。 ③ 身の回りの整理整頓、私物の管理等、学習に向かう姿勢を育てる。 ④ 毎日登校できるよう、生徒の日々の言動に注意し、小さな変化を見逃さず指導する。同時に、必要に応じて家庭と連携を図る。 [学校評価表(質問10)の割合の学年平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>30%以上</td> <td>30%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	30%以上	30%未満	B	B	<p>挨拶や言葉遣いの指導での成果が見られた。 家庭や関係分掌・保健室等と連携を図りながら指導や支援ができた。 一部の生徒に、ピアスを付けたり頭髪加工したりする等の身だしなみや服装の乱れが見られたが適宜指導した。 身の回りの整理整頓、私物の管理が不十分な生徒への指導を継続し、教室の環境改善に努めた。 学校評価表(質問10)の「だいたい当てはまる」[当てはまる]の割合は69%だった。</p>
A	B	C	D										
80%以上	60%以上	30%以上	30%未満										
第2学年部	学力の伸長と研修旅行をはじめとする学校行事への積極的な参加	<p>学校を休まず授業に主体的に参加させ、学力の伸長を図るとともに、研修旅行等の学校行事に積極的に参加できるように働きかける。 [研修旅行の満足度]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>75%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	75%以上	60%以上	60%未満	A	B	<p>学校行事やボランティア活動に積極的に参加し研修旅行の満足度は100%を達成することができた。 進路学習や進路面談を重ねながら、進路目標を明確にし、次年度の進路実現に向けて意識を高めることができた。 インターンシップは全員参加することができ、ほとんどの生徒が「満足できた」という結果であった。 ただし、事前指導の欠席や欠勤をした生徒が一部あった。 身だしなみやロッカー上の空き缶やペットボトルの放置について、一部の生徒に対して年間を通じて注意をすることがあった。学年目標の身だしなみを整えること、教室を美しくすることには課題を残した。</p>
	A	B	C	D									
90%以上	75%以上	60%以上	60%未満										
進路実現を意識したマナーアップとインターシップをはじめとする進路学習への意欲的な参加	<p>学年目標の「時間を守る、身だしなみを整え礼儀正しくする、教室を美しくする」を常に意識した学校生活を送らせる。また、進路目標が実現できるように進学講習や進路学習に意欲的に参加させ、自らの特性についてしっかり把握し、希望進路を決定させる。 [インターシップの満足度]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>75%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	75%以上	60%以上	60%未満	B			
A	B	C	D										
90%以上	75%以上	60%以上	60%未満										
第3学年部	自律と自立	<p>生活規律を確立させ、ルール・モラルを遵守させると共に、計画的に行動させ、提出期限などを守らせる。 下級生を牽引し学校行事や部活動などで達成感を感じさせる。 [学校行事「学校祭」における満足度の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%</td> <td>79%~65%</td> <td>64~50%</td> <td>60%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%	79%~65%	64~50%	60%以下	B	B	<p>担任と家庭が綿密に連絡を取り合い、また、生徒指導部と連携し生活規律・授業規律については少し改善が見られた。ただ、一部の生徒に遅刻や欠課が多く、提出物等の期限遵守についても課題が残った。 学校祭などの行事に自主的に取り組ませ達成感・連帯感を得させるなど、成果を上げることができた。 進路指導部・教科担当・保護者と連携し、また生徒たちも頑張りを見せ、全員希望進路を実現させることができた。</p>
	A	B	C	D									
80%	79%~65%	64~50%	60%以下										
希望進路の実現	<p>1年間を通して授業を大切にさせる。 進路指導部・教科・保護者等との連携を図り、進路指導を組織的に行う。 [卒業時点での進路未決定者数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0人</td> <td>1~2人</td> <td>3~4人</td> <td>5人以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0人	1~2人	3~4人	5人以上	A			
A	B	C	D										
0人	1~2人	3~4人	5人以上										

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
保健部	教育相談機能の充実と特別支援教育の推進を図る。	<p>特別支援教育コーディネーターが中核となって、実態把握や教職員間の情報を共有し、SCやSSW、関係機関と連携を図りながらケース会議の充実に努める。</p> <p>〔ケース会議の回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>週1回以上</td> <td>月1回以上</td> <td>学期に2回以上</td> <td>学期に1回以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	週1回以上	月1回以上	学期に2回以上	学期に1回以上	C	SCやSSW、関係機関と連携し、支援や対応について検討することができた。また、特別支援教育に関する教職員研修を行い、特別支援教育の推進が図れるように努めた。アセスメントや教職員間の情報共有が不十分で、支援の方向が不透明である。支援シートを活用してアセスメントや情報共有を行う等、支援の充実に繋がる取組が必要である。
	A	B	C	D								
週1回以上	月1回以上	学期に2回以上	学期に1回以上									
健康安全教育の充実を図り自ら健康管理ができる生徒を養う。	<p>保健指導や保健だより等を通して、健康安全に関する情報発信を行う。また、自らの健康状態を把握するため、始業前に健康観察を行う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症等の感染症に対して適切な感染拡大防止対策が実行できるように指導する。</p> <p>〔保健だよりの発行の回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月2回以上</td> <td>月1回以上</td> <td>学期に2回以上</td> <td>学期に1回以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	月2回以上	月1回以上	学期に2回以上	学期に1回以上	B	毎月発行する保健だよりやHRでの保健学習を通して健康安全に係わる情報を発信することができた。インフルエンザの罹患者が増加し、感染症に対する危機意識の低下が感じられた。感染症予防も含め、自分自身の健康が管理できるように情報発信や指導を継続する必要がある。	
A	B	C	D									
月2回以上	月1回以上	学期に2回以上	学期に1回以上									
生徒指導部	社会人基礎力の習得（身だしなみの向上）	<p>全ての教育活動を通して個に応じた身だしなみ指導を行う。挨拶、言葉遣いなど社会人として必要なマナー向上を目指す定期、不定期の点検及び生徒会とともに「身だしなみ向上週間」等の取組を実施する。</p> <p>〔身だしなみ点検・生徒会の取組回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>8回以上</td> <td>6回以上</td> <td>5回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10回以上	8回以上	6回以上	5回以下	B	生徒会の挨拶運動は毎週実施できた。身だしなみ点検については3回の実施となったが、頭髪加工等の点検は日常から行い、該当者には指導内容が明確に伝わるよう指導を行い一定の成果が見られた。
	A	B	C	D								
10回以上	8回以上	6回以上	5回以下									
生徒の活力向上	<p>生徒会との連携や広報により部活動加入率を向上させるとともに、その活性化を図る。従来 of 行事・取組を充実させる。次年度に向け、実稼働率の調査を行う。</p> <p>〔部活動加入率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	60%以上	60%未満	40%未満	B	生徒会ニュースを年5回発行できた。 部活動加入率はおおよそ6割で、実稼働数を年度末に調査する。	
A	B	C	D									
70%以上	60%以上	60%未満	40%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
進路指導部	生徒の能力や適性、希望進路を理解し、進路実現を図るため、系統的かつ組織的な進路指導を行う。	個に応じた面談やガイダンス、個別指導等きめ細かい指導を行う。 〔3年次生の進路決定過程における進路指導に対する肯定的意見の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	A B	3年次生の取組においては、ガイダンス、面談等、学年と連携し、きめ細かい指導を行った。その結果ほとんどの生徒が第1志望での進路実現を達成した。 2年次生を対象にインターンシップを実施し、課題もあったが、一定の成果が得られた。 1・2年次生に対して、計画に基づいて様々な行事を実施した結果、2年次生については、進路に向けての意識が高まりつつあるが、1年次生は進路未定者が多く、課題である。
		A	B	C	D							
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満									
計画的・組織的に進路行事を実施し、進路意識を向上させる。 〔1・2年次進路希望調査において、進路を明確にした生徒の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満				
A	B	C	D									
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満									
国語科	社会人基礎力につながる言語能力の向上	漢字・語彙・文法事項など、国語の基礎知識に関わる小テストを全学年で年間を通して定期的に行い、学力の定着を図る。 〔小テストの得点率〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	D C	各学年の授業内で実施している小テストでは漢字テストの得点率が37.2%、語彙テストの得点率が61.6%、合計が43.2%であった。今年度より設定している数値であるため、例年との比較はできないが中間報告時点と比較して、得点率が下がっているため、指導の課題の一つとして改善を進めたい。 C コンクール等への応募を取り入れた活動は「お〜いお茶新俳句大賞」「新潮文庫 ワタシの一行大賞」「マンガ感想文コンクール」の3つに参加することができた。例年と比較して、参加したコンクールは少なくなりましたが図書館と連携した活動を3年次国語表現で3度実施することができたのは今年度の成果である。次年度に向けてより有意義な言語活動の形を模索し実践できるよう検討していきたい。
	A	B	C	D								
80%以上	60%以上	50%以上	50%未満									
鑑賞・表現力の向上と読書指導の充実	全学年を通して表現活動を積極的に取り入れるとともに、校内での掲示や校外のコンクールなど他者の評価を受ける機会を設けることで、資質能力の向上を目指す。また、学校図書館司書と協力し読書に慣れ親しむ態度を育成する。 〔コンクール等に作品を応募した回数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>4回以上</td> <td>2回以上</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	4回以上	2回以上	1回以下			
A	B	C	D									
6回以上	4回以上	2回以上	1回以下									
地歴・公民科	学校設定科目の充実	地域の文化や歴史についての理解を深めるとともに、地域が抱える課題の把握・解決に向けた学習活動を関係機関と連携しながら行う。 〔授業アンケートにおける学校設定科目に対する生徒の肯定的回答の回数・割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%	60%	50%	50%未満	B B	公共マネジメントシステムの授業では、地域理解の促進や課題解決のための情報収集を行うために、外部機関を活用した実践を展開できた。今後は生徒の成果物等を交えた交流や系統を横断するような取り組みを進めたい。 B 主権者教育は、選挙管理委員会による模擬選挙をはじめ、各関係機関と連携し様々な内容で実施した。 また、公民科の授業においても主権者教育を意識した授業に取り組んだ。ただ、科目によって取り組みの差があったため、改善が必要である。
	A	B	C	D								
80%	60%	50%	50%未満									
主権者教育の充実	関係機関と連携しながら主権者教育を進めるとともに、全学年において主権者教育と関連させた授業と教材開発を積極的に取り組む。 〔全学年における主権者教育と関連させた授業の実施の回数・割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>14回以上</td> <td>8回以上</td> <td>5回以上</td> <td>5回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	14回以上	8回以上	5回以上	5回未満			
A	B	C	D									
14回以上	8回以上	5回以上	5回未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
数学科	計算などの基礎学力の向上及び数学的な考え方を通した論理的思考力の習得	<p>生徒の実態をアセスメントしながら、体系的に分かりやすい授業を行う。数学が苦手な生徒に対しては補習を、得意な生徒に対しては進学講習等を行うことで、個に応じた教育の充実を図る。</p> <p>〔定期考査における平均点60点以上の講座数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7講座以上</td> <td>5講座以上</td> <td>3講座以上</td> <td>2講座以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7講座以上	5講座以上	3講座以上	2講座以下	A	<p>進学講習は1年次生1名、2年次生2名、3年次生1名が受講した。次年度以降、個々の進路希望に応じて受講するよう指導する。</p> <p>数学が苦手な生徒に対する補習を充実させる必要があった。</p> <p>放課後に会議や研修が行われることが多く補習授業や進学講習を定期的に安定して行うことができなかった。</p> <p>教員間で、授業の進捗状況や生徒の実態の交流を、教科会議だけでなく日常的に行うことができた。</p> <p>ICT機器の活用については、使用する単元や内容の研究、指導方法の工夫等を検討する必要があった。</p>
	A	B	C	D								
7講座以上	5講座以上	3講座以上	2講座以下									
教員の指導力及び専門性の向上	<p>教科会議を中心に、日々の教科担当者間の交流で各講座の状況を意見交換し、質の高い授業を維持する。また、ICTの活用や効果的な指導方法について協議し、授業力の向上を図る。</p> <p>〔ICT機器に関わる研修会や研究授業等の回数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>6回以上</td> <td>3回以上</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	6回以上	3回以上	2回以下	B		
A	B	C	D									
10回以上	6回以上	3回以上	2回以下									
理科	論理的思考力の向上	<p>思考・判断・表現を評価する際、授業または定期考査において、生徒が自身の考えについて、理由を含めて記述できるよう工夫する。</p> <p>〔記述できた生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>40%以上</td> <td>20%以上</td> <td>20%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	40%以上	20%以上	20%未満	B	<p>自分で思考した文章を記述させることに困難を要した。講座によっては課題を提出させることが難しい場合もあった。</p> <p>環境調査実習、化学演習では、実験・観察を多く取り入れた内容を展開できた。1年次の科学と人間生活、2年次の化学分野・物理分野の講座効果的な実験・観察を入れていくことが課題である。</p>
	A	B	C	D								
60%以上	40%以上	20%以上	20%未満									
理科に対する興味・関心の向上	<p>実験・観察を積極的に行う。その際、生徒に結果を予測させ、その結果が予測と比べてどうなっていたかを考えさせる機会を設ける。</p> <p>〔実験の回数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>9回以上</td> <td>6回以上</td> <td>3回以上</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	9回以上	6回以上	3回以上	3回以下	B		
A	B	C	D									
9回以上	6回以上	3回以上	3回以下									
保健体育科	運動技能の向上及び体力の向上	<p>自己の運動機能や体力の課題を見つけ体力の向上を図る能力を育成する。</p> <p>〔スポーツテストの判定が向上した生徒の割合（2、3年次）〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>50%以上</td> <td>40%~30%</td> <td>30%以上</td> <td>20%以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	50%以上	40%~30%	30%以上	20%以上	D	<p>コロナ過を経て全国的に学年が上がるごとに少しずつでも体力が向上しているにもかかわらず、2、3年生については昨年度の結果よりも総合評価が向上した生徒は無いに等しく、全体の約1割が体力低下という結果であった。</p> <p>ICT機器は保健では活用しているが、体育では部分的にしか活用できなかった。また、保健においても生徒の機器と連携しての取組にはまだまだ課題が残されている。</p>
	A	B	C	D								
50%以上	40%~30%	30%以上	20%以上									
ICT機器を活用した授業の実施	<p>ICT機器を活用し、座学に限らず、視覚にも訴え、よりわかりやすい授業を展開する。</p> <p>〔保健・体育におけるICT機器を活用した講座の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	80%以上	50%以上	50%未満	C		
A	B	C	D									
100%	80%以上	50%以上	50%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
英語科	個々に応じた英語力の向上	<p>日々の授業を大切にさせると共に、ワークシート、単語テストや課題に取り組み家庭学習の習慣を確立し進学講習の充実も図る。 また、実用英語検定の受験を推進する。</p> <p>〔英語検定試験受件数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5人</td> <td>3人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5人	3人	1人	0人	C	<p>全ての講座が少人数のため、個々に配慮した指導を実施できている。毎時間自作のワークシートを活用し、単語テストや小テストも計画的に実施できているが、家庭学習の定着については課題が残っている。</p> <p>実用英語検定の受験者は声掛け等も効果がなく、1回目も2回目も0名と厳しい状況であるが、粘り強く推奨していきたい。</p> <p>系統の授業を中心にAETを効果的に活用できているが、パフォーマンステストの実施は単位数が少なく（特に2年生）苦慮している。</p>
	A	B	C	D								
5人	3人	1人	0人									
言語活動の活性化	<p>AETを効果的に活用し、コミュニケーション能力を育成する。授業中にパフォーマンステストを実施し、言語活動を推進する。</p> <p>〔パフォーマンステストの回数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	B		
A	B	C	D									
3回	2回	1回	0回									
家庭科	基礎的・基本的な知識と技術の習得させる	<p>授業を通し、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭生活を充実向上させる能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>〔定期考査や授業・ワークシートにおいて学習内容を理解している割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満	B	<p>家庭科では、積極的に外部機関・講師を授業に取り入れた特色のある授業を展開するとともに、基礎的かつ実践的な知識と技術の習得を目指すことができた。しかし、普通の授業・実習においてレポート課題の提出率の低さや発表学習の事前準備の不足などが課題と考えられるため、今後の指導で改善を目指したい。</p>
	A	B	C	D								
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満									
生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる	<p>実習を通し、実践的・体験的な活動を行うことで「生きる力」を身に付け課題を解決するために工夫し自立的に生きる基礎を培う。</p> <p>〔実習に意欲的に参加し、実習内容を家庭生活で生かす実践力を身に付けている割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満	A		
A	B	C	D									
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
情報科	情報の科学的な理解及びプログラミング的思考並びに情報活用実践力の育成	<p>様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、抽象化し把握することで情報の科学的な理解を習得する。さらに、情報技術を活用し、問題の発見・解決に情報技術を適切かつ効果的に活用し発信・伝達できる能力を育成する。</p> <p>〔プレゼン実施を含めた実習課題の提出率及び正答率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	50%以上	50%未満	B A	<p>1年次には、自分の夢をテーマに小論文課題に取り組み、テキストマイニングによる分析と自己作品のブラッシュアップにすることで情報技術の活用に取り組んだ。</p> <p>3年次においては、問題の発見・解決から情報発信までの能力の育成に向け、地域創生科で様々な問題解決や映像作品の制作に取り組んできたが、システム思考やBS法の運用が定着しておらず、独創的な発想やチームで話し合う技能に課題が残った。情報科の課題だけではなく地域創生科全体の課題として議論しておく必要性を強く感じる。</p>
	A	B	C	D								
80%以上	70%以上	50%以上	50%未満									
情報社会に参画する態度の育成	<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態を育成する。</p> <p>〔提出物の非コピー率を解析した結果の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	50%以上	50%未満	A	<p>情報モラルの育成について、1年次には関係法規の理解に取り組み、3年次には、情報モラルに関する知識を基に、各種コンテストに向けたアイデアを考案させた。日本政策金融公庫主催の「ビジネスプラングランプリ」、総務省主催の「地域創生アイデアコンテスト」に取り組み、「地域創生アイデアコンテスト」では基準以上の作品を完成させることができた。</p>	
A	B	C	D									
80%以上	70%以上	50%以上	50%未満									
農業科	農業の社会的な意義や役割の理解及び持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度の育成	<p>環境に対応した花卉・野菜を栽培し、教材として4つの学校花壇を整備し、美しい環境を整備させる。地域へも花苗の提供を行い、地域の環境美化に貢献する。</p> <p>〔学校花壇整備の回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回以上</td> <td>5回以上</td> <td>3回以上</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7回以上	5回以上	3回以上	3回未満	A B B	<p>本校で育苗した花苗を4つの学校花壇に植栽した。夏花壇用草花約800苗を栽培し、福祉協議会を通して地域の夏花壇に提供し、地域の美しい環境作りに貢献した。種子の80%は自家採種を行い、持続可能な環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>大木の伐採をしていただいたことにより実習農場も広がり、日照も改善され、計画通り整備ができた。野菜等は多品種少量生産で栽培し、理論と実践を身につけた。</p>
	A	B	C	D								
7回以上	5回以上	3回以上	3回未満									
探究活動による地域創生教育の実践の推進	<p>環境サイエンス系統の実習として、以下の5項目が進捗したかを、授業時間で評価する。①実験的な栽培農場15h ②鉢物栽培15h ③水耕栽培15h ④温湿度の管理をするスマート農業10h ⑤地域資源活用5h</p> <p>〔上記授業の実施割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>40%以上</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満	<p>スマート農業の取組は、水耕栽培を5月にスタートし、養液の漏れも改善しているが、Wi-Fi環境が未整備のため、温度・日照管理システムの構築が遅れている。Wi-Fi環境やIIOTを活用したスマート農業を整え、新たな探究活動ができる素地を完成させたい。農業科としての専用教室（既存の教室）を割り当てることを要望する。</p>		
A	B	C	D									
80%以上	60%以上	40%以上	40%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
商業科	探究活動による地域創生教育の実践	<p>商業教育による探究活動を通して、課題解決ができる能力を養う。その過程として、調査や分析、検証を重ねることで思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>〔外部機関との連携回数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>5回以上</td> <td>3回以上</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	5回以上	3回以上	3回未満	A	<p>地元団体や大学等と連携しながら販売実習、メタバース、くるせる新規開拓等、様々な取組を実践し生徒の探究心の育成につなげることができた。</p> <p>地元のFM放送局と連携を図り、VTuberによる地域の事業所との3次元放送の取組を実践した。</p> <p>また、外部機関との連携を図り、映像コンテンツやポスター等を制作することで、本校の広報活動にもつなげることができた。</p> <p>商業系の各種大会やプレゼンテーション大会等に積極的に参加し、生徒の主体的に取り組む態度の育成を図ることができた。</p>
	A	B	C	D								
7回以上	5回以上	3回以上	3回未満									
効果的な広報活動の推進	<p>地域と連携し、制作した映像コンテンツやポスターなどによる広報活動を展開する。同時に、SNSを活用した配信方法を検証し、効果的な広報活動を実践する。</p> <p>〔広報実習（YouTube配信実習）に関する生徒アンケートの満足度〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	60%以上	60%未満	A		
A	B	C	D									
90%以上	80%以上	60%以上	60%未満									
福祉科	福祉に関する基礎的・基本的な知識の習得	<p>社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を習得し、地域が抱える福祉の諸課題の解決のため、レポートや発表、実習等を通して、主体的に社会参画を行える力を育成する。</p> <p>〔授業アンケートにおける生徒の肯定的回答の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満	B	<p>「社会福祉協議会」や「福知山市聴覚言語障害センター」等と連携し、車いす体験や高齢者体験などの福祉実習、聴覚障害への理解学習を実施した。また、福祉施設を訪問し、地域の福祉の現状や課題について、実際の現場から学ぶ機会を設けることができた。</p> <p>一方で、地域が抱える福祉の諸課題の解決のためのレポートや発表等は不十分であった。実習の振り返りだけでなく、主体的に課題解決に向けた力を育成する取組を充実させていきたい。</p>
	A	B	C	D								
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満									
実習の充実	<p>地域の福祉に関する関係機関と連携し福祉の実習内容をより充実させる。</p> <p>〔授業アンケートにおける生徒の肯定的回答の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満	B		
A	B	C	D									
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満									

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>大江町総合会館での学習成果発表会は、生徒も立派な発表をしており、大江高校が地域と連携してさまざまな取組をしていることがよく分かる発表内容で大変良かった。</p> <p>さらに、地域との連携を強め、高校生のアイデアで地域活性化案を考えるような取組を増やしていければよい。また、地域創生科の取組について、ホームページや新聞報道等へのよりタイムリーな広報が望まれる。</p> <p>学校評価アンケートで、保護者等の回答が少なく評価が下がっている中、生徒対象のアンケート結果は向上しており、さらに、時代に合った教育活動を展開しながら、生徒の力を伸ばしてもらいたい。</p>
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<p>地域創生科における教育活動について成果を整理し、さらに魅力ある取組とする工夫・改善を進める。募集定員の充足に向け、ホームページの更新や報道機関による広報等を通じた生徒募集を充実させる。スクールミッションを踏まえ、その実現に向けて教育内容の充実及び評価方法の工夫・改善を行い、より質の高い学力の育成に向けて取り組む。さらに、地域と連携した探究活動やICT活用授業を推進し、特色ある取組を展開する。</p>
-----------------------	--